

グループ紹介

ソフトバレーボールクラブ
『もくよう会』

▼福島市で行われた全国大会に参加のメンバー



わいわいがやがや楽しんでま〜す！

『もくよう会』は、20代から70代まで幅広く、男女を問わず練習しているソフトバレーボールチームです。部員は40人です。チーム名は木曜日に練習していたことにちなんでつけていましたが、今は水曜日20時～22時、土曜日19時～21時に緑が丘小学校体育館で練習をしています。毎回の練習には15～20人が参加して汗を流しています。

今年は佐賀県ソフトバレーボールシルバー大会で優勝し、10月21日から福島市で開催された第19回全国ソフトバレーシルバーフェスティバルに、男女10人で参加。各県の代表のレベルアップと日頃のコンビ練習不足で、成績は振るいませんでしたが、交流会では全国の方とお国言葉が飛び交い交流を深めました。被災地の方の「皆で立ち上がらなければ」と思う強い決意には、反対にエネルギーをもらいました。日々味わえないたくさんの経験が出来て、改めて健康・仲間・家族に感謝した大会でした。

運動不足の解消、仲間づくりにわいわいがやがや楽しく行っています。みなさんものぞいてみませんか？

問 副島歯科医院 副島洋二 ☎75-2824

●連載8● 郷土資料館で学ぶ多久の歴史

もとの
本野コレクション第2弾

『里帰りした孔子画像』

東京都在住の本野克彦さんは長年佐賀県関係の歴史資料や美術品を収集され、当館においても平成20年に所蔵資料13点を寄贈いただくなど多大な貢献をされてきました。さらに今年9月、新たに収集された資料など17点を寄託いただきました。今回紹介する作品は本野さんのご厚意によって帰郷がかなった孔子画像です。

この作品には「多久聖堂 孔夫子像」という赤いラベルが付いており、これは他の聖廟の備品にも共通して付けられています。描かれた孔子は蓮座にすわり、炎を背



に邪鬼を従えるなど一般的な孔子像とはずいぶん異なっており、お香の煙のためでしょうか顔はややすずけています。

多久聖廟や東原産舎の備品は、江戸時代からたびたび盗難に遭っています。この作品もいつの頃か盗難にあい、めぐりめぐって再び多久へ帰ってきました。数奇な運命をめぐり抜けてきた作品をぜひご覧ください。

◀里帰りを果たした孔子画像

本野コレクション第2弾

『帰ってきた孔子と多久の文人たち』

会場 / 多久市郷土資料館 3号展示室

会期 / 12月3日(土)～平成24年1月31日(火)

休館日 / 月曜日(月曜が休日の場合は開館し翌火曜休館)

開館時間 / 9時～16時 入館 / 無料

■問い合わせ 多久市郷土資料館 ☎75-3002

短歌

《麦の芽短歌会 互選》

風に鳴る 電線の音 黙し聞く
テレビは 豪雨 禍 伝え 続くる
ラベンダー 咲き 乱れてる 北国は 浦野 嘉恵
あこがれの 地よ 命若やぐ
自由といふ 淋しき 日々 の 明け 暮れに 梶原恵美子
夫の 小言の 思ひ ださるる
災害が 次から 次々に 襲い 来て 本村 則子
狭い 日本 の 何処に 逃げ 本田 静香
原発 対応 知事 への 不信 ぬぐ えずに
秋の 季節は 深まり て いく
尾形 節子

俳句

《楷樹句会 互選》

秋夕日 美しく 年重 ねたし 不二見恵美子
畑に 水やる 間の 釣瓶 落し かな 野田キヌ子
嫁来ると 増築 急ぐ 秋の 空 森山 袍石
秋の 夜や ひざ 這い 上る 冷気 あり 納富 芦風
新涼を 蒼茫の 海 運び びきし 春田 泰子

川柳

《多久市川柳会 互選》

一振り で 流れを 変えた ホームラン 高塚チカ子
しあわせは 足を 運んで 訪れる 東島すみ子
うまそうに 渋柿 赤く 秋日和 古賀ちひろ
聞き流す ことも 覚えた 定年後 松下 修
栄養を 捨てて スタイル 手に入る 西山 残月

市民文芸

